

女子高生・車座フォーラム 2016

12月23日(金)、京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム 2016」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画で、今年で11回目の開催となります。高校生129名、保護者64名の参加がありました。



はじめに、今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行で、稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。車座フォーラムについて当初は30名程度で始まったものが、京都大学へより多くの女子学生に入って来てほしいという願いから規模を拡大してきたと語り、京都大学では男女共同参画アクションプラン



や山極総長が打ち出しているWINDOW構想において次世代育成を掲げ、総長をはじめ全学一丸となって女子学生の支援をしていきたいと思っていると述べました。最後に、「希望あるいは夢を持ってそれが実現する



ように何事にもチャレンジしていただきたい。大学受験も夢を実現するための一歩です。今日一日が皆さんにとって実りある、楽しい、よい経験だったと言えるような一日になることを願っています。」と高校生を激励しました。

次に、川添 信介理事・副学長が、京都大学について紹介をしました。山極総長の掲げているWINDOW構想について、大学とは閉じた場所ではなく社会や世界に向けて学生を送り出す窓であると述べ、京都大学は規模が大きく様々な分野があり、学ぶことのできる範囲が非常に大きい総合大学であると説明しました。京都大学の理念である「対話を根幹とする自学自習」について、教えてもらうのではなく自分で考え自分で学ぶ姿勢、尚且つ独りよがりにならないで多くの人と交わりながら学ぶ姿勢を大切にしていると述べ、「自由の学風」については、常識に捕らわれない自由な発想を大事にしており、京都大学がノーベル賞受賞者を多く輩出したのは、そうした学風によるものかもしれないと語りました。最後に、「山極総長はいつも“おもしろい”という言葉をお使いになっていますが、是非ともおもしろいことを探しに京都大学に来ていただくことを期待しています。」と締めくくりました。



続いて、教育推進・学生支援部入試企画課より、平成29年度学生募集要項についての説明があり、アドミッションポリシーや入試についての説明がありました。

その後、生命科学研究科の大澤 志津江准教授が「生命現象の美しさに惹かれて」の題で講演を行いました。大澤先生は高校時代の恩師の「出会いというのは、それまで何でもなかったものが自分にとってかけがえのないものになることなんだ。だから出会いを自分自身で積極的に求めて歩いていってください。」という言葉を紹介し、現在している研究が大澤先生にとって一つの大きな出会いだったのではないかと語りました。そして、「大学に入るといことは人生の中の一つのプロセス





であって、その後、様々な出会いを通して周りの人々から影響を受け、自分のやりがいや生きがいを見つけていくのだということを少しでも感じていただければと思います。」と高校生に語り掛け、大澤先生が高校生の頃からどのように研究の道を歩んできたかについて話をしました。高校時代はバスケットボール部の活動に励み、将来については化学や癌の研究、理学療法士にも興味があり、何が一番やりたいのかがわからない中、化学で行った実験で劇的な物の変化を目の当たりにしたとき、生命現象を学びたいと思い、東北大学理学部の化学科に進んだと語りました。そして、学ぶうちに自分の身体で起きている現象を理解したいと思うようになり、生物系の研究室である藤井 義明先生の研究室に入り、そこで藤井先生が夢を語る姿に、そこまで熱くさせる研究とはどういうものなのかと興味を持ったと振り返りました。研究を進めていくうちに、自分なりに考え、文献を調べ、アドバイスをもらいながら進めていく研究の面白さに目覚め、明確にやりたいことを決めてそれに向かって進んでいる同期に影響され、自分のやりたい研究は何かと考えたとき、細胞死の研究に興味を持ち三浦 正幸先生の研究室に入ったと話しました。そして、研究する中で見た神経細胞が決まった位置へ投射する現象や細胞死遺伝子カスパーゼが活性化する現象の美しさに感動し、自分の研究への強い愛着が生まれ、現象を理解したい、調べたいという強い気持ちが研究を続けていくきっかけになったと熱く語りました。また、この頃には自分が研究者に向いているかという視点ではなく、好きだからやりたいと思うように考え方が変わったと心境の変化についても言及しました。井垣 達史先生の研究室に移り准教授になり、学生から教員になったことで、違う考えを持つ人と一緒に研究を作っていく楽しさ、学生の成長を見るという新しい研究の楽しさが見えてきたと話し、これからも新しい研究の楽しさを見つけつつ進んでいきたいと語りました。論文を受理してもらえないことが続くなど苦しい時期があっても研究をやめたいと思ったことは一度もなかったと話し、それについては、愛着のある

現象を自分で見つけて調べ、なかなか結果が出ない中でも調べ続けるうちに思いもなかったような新しい現象が見つかり、更に自分の研究に愛着が生まれる、その繰り返しによって研究を続けることができているのではないかと分析しました。プライベートではテニスを始め、ひと時研究から離れることでまた新たに研究のことを考えることができ、テニスでつながった研究者と研究のディスカッションを深くできるなどよい影響があり、生活を充実させてくれていると語りました。最後に、「これから高校生活でいろいろな体験をされるでしょうし、卒業後も楽しいことや面白いこと、辛いこともいろいろあると思いますが、とにかく一つでも愛着の持てるものを見つけてほしいと思います。待っていても絶対に見つからないので自分から積極的に求めていって、見つけた愛着を持ったものを大事に生きていっていただけたらと思います。」と高校生にエールを送りました。

その後昼休憩に入り、昼休憩後はグループワークの説明と講師の紹介がありました。高校生は希望学部別のグループに分かれ各部屋に移動し、グループワークを行いました。高校生には事前に聞きたいことを質問用紙に記入してもらっており、それをもとに学生スタッフが主に受験勉強や学生生活などについて実体験を、講師が研究生活や専門などについて語りました。和気あいあいとした雰囲気の中、「京都大学に決めたのは何故ですか」「どうやって学部を決めましたか」「受験勉強はどのようにしましたか」「どのような就職先がありますか」「高校時代にしてよかったことはありますか」「興味がすぐ変わってしまうのですが、どのように決めるといいですか」「何か取れる資格がありますか」など時間いっぱい様々な質問がありました。

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京大生との交流会に参加しました。稲葉理事の挨拶の後、保護者から京大生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを質問してもらい、学生が回答しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。グループワークの最後に、グループ



ワークで聞くことができなかった質問や学部を超えた質問などを質問用紙に記入してもらっており、伊藤 公雄男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれの質問に各分野の講師が回答しました。「心理学はどの学部で学べますか。」「法律を学ぶとどのような仕事に活かれますか。」「物理を学びたい場合は理学部と工学部でどのように違いがありますか。」「血が怖くても医学部でやっていけますか。」などたくさんの質問があり、学部ごとの特徴や学べることの違い、就職先などについて幅広く話がありました。最後に、伊藤支援室長が「本日は京都大学のいろんなことを知っていただけたと思います

す。人権の観点からも学問や経済の活性化のためにも、女性の参画、社会に多様な人が必要です。女性が入っているいろんな研究、いろんな議論をし、学問を活性化させるためにも、ぜひ意欲を持って京都大学に来ていただきたいと思います。」と締めくくりました。

その後、入試に関する質疑応答が行われ、車座フォーラムは盛況のうちに終了しました。



グループワークの様子



文学部・教育学部



法学部



経済学部



理学部



医学部（医学）



医学部（人間健康科学）



薬学部



工学部



農学部



総合人間学部（文系）



総合人間学部（理系）



保護者（京大生との交流）

車座フォーラム参加者の声（アンケートより）

- ・直接、京大生や教授の方と語り合うことができて、研究することの楽しさや、おもしろさを感じることができました。また、お話を聞いて、今後、どのように学部・学科を詳しく決めていくかの大体の方針のたて方が分かって良かったです。
- ・オープンキャンパスでは、先生や学生さんと1対1で会話する企画に参加したけれど、今回はグループ討論ということで同い年の女子高生の子たちの質問をたくさん聞くことができて共感したり、刺激を受けることがたくさんあった。質問に対する応答も分かりやすかったし、自分では気づかなかった質問に対する答えを聞くことができて楽しかった。このような機会を設けて頂き、参加できて本当に良かった。
- ・学生さんや先生たちとグループワークと聞いて堅苦しいんだろうなと思っていたら、とても柔らかく親しみやすいものだったので良かったです！女子高生だけなので、とても取り組みやすかったです。
- ・好きな学問を深く学べるという意味で研究職はとても魅力的だと思った。女性研究者の支援もあり、研究しやすくなっていることがわかったので良かった。
- ・実際に研究者の話聞いて、良い機会に恵まれたなと思いました。いい経験になりました。こういう機会はなかなかないので、思いきって行って本当に良かったです。これからも自分の好きなものを追いかけて頑張りたいと思います。

講師・グループ・会場

グループ	氏名	所属	研究分野	会場
文・教育	伊藤 公雄	文学研究科	文化社会学、メディア研究、ジェンダー論	総合研究 8 号館 数理会議室
	中川 純子	学生総合支援センター	臨床心理学、学生相談	
法学部	横山 美夏	法学研究科	フランス法・民法	総合研究 8 号館 演習室 1
経済学部	井上 恵美子	経済学研究科	気候変動、企業の自主的環境対応	国際科学イノベーション棟 会議室 5a
理学部	常見 俊直	理学研究科	理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携	総合研究 8 号館 会議室 1
	村山 美穂	野生動物研究センター	遺伝情報に基づく野生動物の保全	
医（医学）	木梨 友子	原子炉実験所	放射線腫瘍学、放射線生物学、放射線管理学	国際科学イノベーション棟 ミーティングルーム
医（人間健康科学）	若村 智子	医学研究科	生活環境看護学、時間生物学、睡眠	総合研究 8 号館 演習室 2
薬学部	瀬原 淳子	再生医科学研究所	動物の発生・再生メカニズム	総合研究 8 号館 演習室 3
工学部	佐藤 亨	情報学研究科	電波工学、レーダー、イメージング	総合研究 8 号館 講義室 3
	島田 洋子	工学研究科	環境リスク評価、環境汚染モデリング	
農学部	徳地 直子	フィールド科学教育研究センター	森林生態系生態学、物質循環	総合研究 8 号館 講義室 4
	今村 博臣	生命科学研究科	生物物理、生化学、化学生物学、細胞生物学	
総人（文系）	小山 静子	国際高等教育院	教育史・家族史・ジェンダー史	国際科学イノベーション棟 会議室 5b
総人（理系）	東樹 宏和	人間・環境学研究科	生態学、進化生物学	総合研究 8 号館 会議室 2

学生スタッフ

グループ	氏名	所属
文学部・教育学部	鈴木 慎介	文学部
	渡 智一郎	文学部
	大坂 陽子	教育学部
法学部	桑原 静羽	法学部
経済学部	水野 寸奈於	経済学部
	志賀 琴乃	経済学部
理学部	佐藤 悠	理学研究科
	磯田 珠奈子	理学部
	栗原 悠宇希	理学部
医学部（医学）	向平 妃沙	医学研究科
	西尾 周朗	医学部
	三木 麻紗与	医学部
医学部（人間健康科学）	勝島 倫子	医学部
薬学部	油田 祥太郎	薬学部
	清水 海斗	薬学部
工学部	田中 雄大	エネルギー科学研究科
	佐治 奈萌子	工学研究科
	石田 彰紀	工学部
農学部	三木 健司	農学研究科
	富永 溪太	農学研究科
	岡田 瀬礼奈	農学部
総合人間学部（文系）	堀川 亮祐	総合人間学部
	高橋 連	総合人間学部
総合人間学部（理系）	岡村 名七子	総合人間学部
	下村 風香	総合人間学部

プログラム

- 10：00-10：30 受付：京都大学国際科学イノベーション棟
シンポジウムホール
- 10：30-10：35 開会の挨拶 （理事・副学長 稲葉カヨ）
- 10：35-10：55 京都大学の紹介 （理事・副学長 川添信介）
- 10：55-11：10 入試に関する説明
（教育推進・学生支援部 入試企画課）
- 11：10-11：30 女性研究者の講演
「生命現象の美しさに惹かれて」
（生命科学研究所 大澤志津江）
- 11：30-13：00 昼食・休憩
- 13：00-13：40 講師紹介・グループワークの説明
（広報・相談・社会連携事業 WG 主査 今村博臣）
- 13：40-15：00 グループワーク「車座になって話そう」
高校生：講師・京大生とのグループワーク
保護者：京大生との交流
- 15：00-15：10 休憩
- 15：10-15：50 まとめの全体会
（男女共同参画推進本部支援室長 伊藤公雄）
- 15：50-16：00 休憩
- 16：00-17：00 入試に関する質疑応答
（教育推進・学生支援部 入試企画課）

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>